

分 類	1—3 常備品、防災器具等の理解と指導要領
目 的	<p>一般に「常備品」、「防災器具」というと、いわゆる「自助」として、すなわち自宅での器具等が想起される。防災の活動としては、なんと言っても先ず自助が基本である。自らの身体や家族の安全確保なしに、地域での防災活動もあり得ないからである。次に、地域での自主防災活動などの「共助」として、すなわち自主防災組織や指定避難所での器具等が想起される。地域での防災活動にも、やはりさまざまな器具等が必要である。(この、自助と公助の取り扱いのバランスについては、作成者が配分する。)</p> <p>地域には、その特性に応じてさまざまなリスクがある。また、主なりリスクとなる災害の種類によって、必要な常備品や防災器具にも違いがある。講習等に先立って、その地域の様子(立地条件)や主にどのような災害への対応が必要なのか(地震、水害、土砂災害、竜巻等)を、十分に調べることが大事である。(どの災害に重点を置くかも、作成者に任される。)</p> <p>私たち防災士に必要な知識・技能としては、先ず自らと家族の命を守るための「耐震診断」とその対応策の勧め、「家具の転倒防止」の具体的な方策の教示、万が一の際の「非常持ち出し品」などの具体的なアドバイスができるようにしたい。さらに、「共助」として、自宅が住めなくなった人のための避難所開設・運営に関する常備品や防災器具に関する知識や使い方の訓練も必要である。常備品や必要器具については、扱い方の留意点をアドバイスできるようにしたい。</p> <p>最後に、共助としての防災器具については所属する自主防災組織内ですべてを準備するのは、いろいろな点で難しいかもしれない。足りないものは近隣の自主防災組織との間の貸借の仕組みを作るといふ知恵を教えたい。近隣の地域が、どこもまったく同じ程度の被害を受けるといふことはないと思われる。貸借がスムーズに行えるネットワークを作り、さらにマンパワーの支援が可能となるネットワークへと発展させることが防災士としての共助の知恵である。</p>
主な内容例	<ul style="list-style-type: none"> ・常備品、防災器具に関する一般的注意点(取り扱いのノウハウだけでなく、有時の際に使いやすくするための工夫も含む) ◎以下必要と思われるテーマを列挙する <ul style="list-style-type: none"> ・知っていると便利な防災知識 ・点検のポイントと器具 ・家の片づけ ・家具の固定 ・給食・給水 ・避難誘導 ・救出・救護 ・消火 ・給食・給水 ・情報(情報収集と情報集約・共有) ・トイレ対策 ・衛生管理(清掃) ・非常食 ・ペット対策 ・高層マンション特有の常備品と防災器具 ・高齢者と障害者 ・近隣自主防災組織間のネットワークの構築 ・その他
参 考 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・防災士教本(2022年版)251ページ ・イツモ防災マニュアルブック(埼玉県) ・東京備蓄ナビ ・釜石 徹「マンション防災の新常識」